

### 当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所  
解放新聞和歌山支局

〒640-8314  
和歌山市神前 405-3  
TEL 073-473-2301  
FAX 073-473-2302

発行責任者  
藤本哲史



あらゆる差別に立ちむかい、ともに闘おうとあいさつする組坂委員長

# あらゆる差別撤廃のため、奮闘しよう

## 部落解放同盟第73回大会

3月2日、3日の両日、東京・日本教育会館で部落解放同盟第73回大会が695人規模で開催され、和歌山県連から42人の代議員が参加した。

1日目の全体会で、主催者を代表して組坂繁之・中央委員長は、差別を禁止する法制度や人権行政確立の

必要性、狭山第3次再審闘争が正念場を迎えていること、電子版「部落地名総鑑」や電子空間上における差別

トスピーチや電子空間上における差別事件へのとりくみ強化、各府県連の男女共同参画による部落女性の意見反映など、多くの意見が協議された。

昨年11月にひらかれた「人権フォーラム」で、部落問題に特化した法制度の確立を求める集会の開催について、参加した代議員から、部落解放同盟と「戦争関連法案」を制定させた自

各分散会では、各地での活動報告にあわせ、組織の高齢化をふまえた女性や青年の運動参加の強化、ヘイ

事件などへの法整備の必要性についての問題提起を含めたあいさつをした。つづいて、来賓あいさつなどの開会行事のあと、第72期の活動報告と決算、監査報告にあわせ、第73期の運動方針案と予算案の提案がされ、分散会での議論がおこなわれた。

2日目の全体会では、各分散会の議論の内容が報告されたあと「発言通告用紙」にもとづいて意見発言がおこなわれ、中央役員選挙の開票結果報告、各都府県連選出の中央委員と中央組織規律委員の紹介がおこなわれた。大会の最後に、第73回の大会宣言、大会スローガンを採択し2日間の大会をおえた。

役職	名前
中央執行委員長	組坂繁之(福岡)
中央副執行委員長	坂本三郎(兵庫)
〃	片岡明幸(埼玉)
〃	松本龍(福岡)
〃	北口末廣(大阪)
書記長	西島藤彦(京都)
中央財務委員長	赤井隆史(大阪)
中執行委員	池田清郎(和歌山)
〃	田村愼悟(兵庫)
〃	植村あけみ(兵庫)
〃	安田茂樹(京都)
〃	和田献一(栃木)
〃	政平智春(広島)
〃	山崎玲子(愛知)
〃	松谷操(奈良)
〃	伊藤満(奈良)
〃	原伸一(福岡)
〃	吉岡正博(福岡)
〃	村井康利(大阪)
〃	高橋定(大阪)
〃	谷川雅彦(大阪)
特別中央執行委員	大西聡(東京)

第73・74期中央執行委員会 構成役員

### 頑健

4月は「卯の花が咲く季節」というらしい。この文が届くころには、もう桜も散ってしまっている。世間では新入生や新入社員であふれ、人生の大きな節目の時である▼先日「保育落ちた」というブログのつぶやきが大きな波紋をよんだ。以前から政府(安倍内閣)は、「待機児童ゼロ」「女性の社会進出」さらには「出生率」などを政策の目玉にしている。ところがこの「つぶやき」が国会でとり上げられたとき、総理の答弁やヤジが、さらに物議をよんだ。また先日、ある機会に県の担当者から「保育の施策で、新規に保育士の資格を取るための支援策ができた」との話聞いたが「問題はそこじゃないよ」とも感じた。もちろん保育所施設の整備充実も大事だが、それでも人は相当存在する。しかし、定着率が極めて低いのだ。この現象は、介護現場のスタッフの圧倒的な不足と同質である。保育や介護の仕事に希望と意欲、使命感をもって資格を取得するが現実には極めて過酷である。しかも極端な不安定就労と低賃金だ▼今、政府は、次々と耳障りの良いキャッチフレーズを発表する。しかし、多くの働く人は、希望のもない暗い淵に追いやられているのである。「私、活躍出来ねーじゃねーか」これは、悲痛な叫びだ▼時は卯月、新たな出発の時なのに

(S・I)